

資格創設30年、今後にも発展に尽力

建築設備技術者協会(JABMEE、田辺新一会長)は、「建築設備士の日」の11月18日に記念行事を東京・豊洲の芝浦工業大学で開催した。スポーツ政策論が専門の間野義之早稲田大学スポーツ科学学術院教授が「2020年オリンピック・パラリンピックレガシー」をテーマに講演。清水建設の今井田尚文設計本部設備設計4部設計長が「生長の家」森の中のオフィス「日本初のゼロエネルギービル」と題した事例発表を行った。

建築設備士の日

建築設備士の地位向上や協会の発展に著しく貢献した組織や個人を顕彰する第3回「会長表彰」では、新日本空調、三建設備工業の2社が表彰された。

冒頭、田辺会長は「今年は建築設備士資格が創設されて30年の節目であるだけでなく、6月施行の改正建築士法に『建築設備士』が規定され、7月には建築物省エネルギー法が成立・公布された。『建築設備士の日』も5回目を迎える。協会は今後も皆

JABMEEが記念行事 講演や事例発表



会長表彰受賞者と田辺会長(中央)

さんの役に立つとともに、設備技術者、設備技術者の発展に尽力していく」とあいさつした。

記念行事に続き、JABMEE、空気調和・衛生工学会、電気設備学会、日本空調衛生工事業協会、日本設備設計事務所協会、日本電設工業協会が構成する建築設備6団体協議会の主催で記念祝賀会が催された。

建築設備士の日は、「建築設備士の業務や活動を広く社会に知ってもらうため、2011年にJABMEEが制定した。11月18日は建築設備資格者を定める建設省告示が公布された日に当たる。